



糖尿病通信

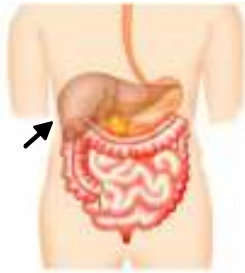
—22—

糖尿病と上手にお付き合いするために

糖尿病と肝臓

糖尿病と肝臓は深い関係があります。脂肪肝と診断される糖尿病患者さんも多いのです。

1. 肝臓の役割

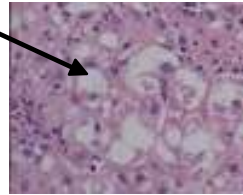


肝臓は右の肋骨の下にあるとても大きな臓器です。肝臓は様々な仕事を行いますが、血糖のコントロールでも中心的な役割を果たしています。食事により腸から吸収された糖の一部は、肝臓で多数のブドウ糖をつなげたグリコーゲンという物質に変えられ貯蔵されます。肝臓に貯蔵されたグリコーゲンは約60gで、余った糖は最終的に脂肪に変わり、肝内だけでなく全身の脂肪組織に蓄えられます。(グリコーゲンは簡単におろせる普通預金、脂肪は定期預金と考えるとわかりやすいでしょうか。) 血中のブドウ糖が不足してくると、肝臓はグリコーゲンを分解して、ブドウ糖とし、放出します。夜間などしばらく食事をしないと蓄えてあったグリコーゲンが無くなり、アミノ酸などからブドウ糖を合成し放出します(糖新生)。こうして、肝臓はいつも身体が不自由なく糖を使えるように、こまめに調節しています。

2. 糖尿病と肝

インスリンは血糖を下げるホルモンですから、糖からグリコーゲンを合成し、その分解を抑制するよう働きます。また、肝での糖新生を抑制します。糖尿病になるとインスリンの作用不足により、肝臓に糖が取り込まれず(食後高血糖)、空腹時には必要以上に糖が新生されます。(空腹時高血糖)

たまった脂肪滴



3. 脂肪肝と糖尿病

肥満のある2型糖尿病の患者さんでは脂肪肝がよく合併します。脂肪肝は肝臓に中性脂肪がたまった状態です。脂肪の多い食事をすると肝臓に取り込まれる脂肪も増えます。血糖値が高いと、過剰な糖が肝臓に流れ込み、肝内でどんどん脂肪が合成されます。また、糖尿病がありインスリンの効きにくい状態(インスリン抵抗性)があると脂肪組織の中性脂肪が分解されて血中に流れ込み、肝臓でまた中性脂肪に変えられます。こうして肝臓の中に脂肪がたまり脂肪肝となるのです。

4. NASH (非アルコール性脂肪肝炎)

最近脂肪肝の中に、徐々に肝硬変に変わって行き、肝臓の発生も見られる例もあることがわかり注目されています。NASH と呼ばれ、脂肪肝に内臓肥満や糖尿病を合併している人は要注意です。食事療法と運動療法で体重を管理することが重要で、インスリン抵抗性を改善させる薬が有効と言われています。 内科 柳澤

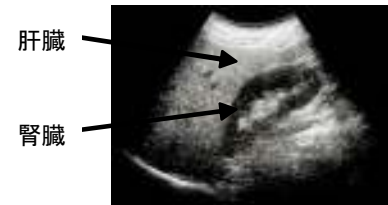


糖尿病の検査



★腹部エコー・・・肝臓の検査

肝臓が障害されても初期は無症状のことが多く、沈黙の臓器といわれる由縁です。血液検査の結果から障害を推測することができ、腹部エコー検査にて、肝臓の状態を診断することができます。脂肪肝では、GOT よりもGPT の検査値が上昇するといわれています。アルコール性の場合にはγ-GTP も高値になります。脂肪肝の診断には腹部エコー検査が欠かせません。



肝臓
腎臓

エコー検査の画像では、脂肪肝は健康な肝臓より白く光って見え、これは肝臓に多くの脂肪が蓄積されている証拠です。腎臓との対比で白黒がはっきりしていれば脂肪肝と診断されます。

腹部エコー検査では、肝臓の他、腎臓、胆のう、脾臓、膵臓などの腫瘍性の病変の他、ポリープや結石、炎症、などが分かります。また、消化管や血管、血流についても情報が得られます。**毎週火・土曜日の午前中に予約制にて行なっております。** お腹にゼリーを塗り、プローブと呼ばれる検査器具をあてて検査を行ないます。痛みや害はありません。所要時間は約15分です。糖尿病の方は定期的なチェックとして、少なくとも一年に一度は検査を受けられることをお勧めします。ご希望の患者様は主治医までお申し出下さい。 検査科 鈴木